

わたしたちの街に新しい発見

はばたけ未来へ！ 子ども達！



伊方中学校

地域・家庭・学校が一体となって将来を担う子どもたちの育成に努めましょう。

生涯学習だより

ふれあい

いかた

毎月第2日曜日は「家庭の日」です。

1月のテーマ“希望を語り合おう”

(実践方法)

- 家族そろって今年の目標をたてたり、新しい年の生活設計について話し合おう。

平成20年
1月1日発行

No.33

1月号

年頭所感



伊方町教育長

田村 ヤエ子

平成二十年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、ご家族お揃いで清々しい新春をお迎えのことと存じます。

旧年中は本町における教育行政の推進に對しまして格別のご指導・ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

「ご案内のとおり、約六十年ぶりに教育基本法が改正されました。また、「社会総がかりによる教育再生」ということで教育に對する関心が一段と高まった一年でした。「社会総がかり」の社会とは、家庭、地域社会、企業、社会全体を指しています。教育は国家百年の大計です。社会総がかりは当然のこととして納得できます。

従来、わが国の教育は、家庭や地域社会が豊かな人間形成に果たす重要な役割を担っていることを前提に推進されました。家庭では道徳性や生活習慣の育成・定着を担ってきました。地域社会では、多様な体験による生活の知恵や人間関係・規範意識を学びとてきました。

今、世間では家庭・地域社会の教育力の低下が云々されていますが、伊方ならではの社会総がかりによる教育を紹介させていただきます。

家庭では、「早寝・早起き・朝ご飯・帰っておさらい・お手伝い」の実行に努めています。また、真夏の「佐田岬見て歩き」に参加させ、心身共に強い子どもを育てていただきました。

地域社会では、安全な登下校のため、「にこにこ隊」「ペンギン隊」「うみねこ隊」等を自主的に結成し子どもたちを見守っていただいております。また、いかた未来倶楽部さんには「環境保全活動」「黒島体験等健全育成に」尽力いただきました。

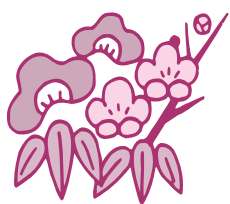
各企業には、中学生の職場体験等で大変お世話になりました。紙面の都合で掲載できなかった多くの皆様、ご協力ありがとうございました。

今後、全国的な最重要課題の「いじめ等」に対しても、学校・家庭・PTA・関係機関等社会総がかりで予防に努めたいと思います。

社会教育面では、学習機会の提供、公民館活動を通じた地域づくり、人権尊重の町づくり等積極的に推進してまいります。

皆様方の知恵と力をお借りして今日の教育課題が、明るい方向に前進することを願っています。

今年も佐田岬半島の歴史を礎に「教育と文化と人



謹んで
新年のお慶びを
申し上げます

教育委員長

塩崎 幸生

教育委員

松田 光一

教育委員

森 清

教育委員

戸田 義則



「日本女性会議2007

ひろしま」に参加して

いかた女性塾塾長 菊池よし子

私たち女性塾生5名は10月19日、20日、国際文化都市「広島市」で開催された「第24回日本女性会議」に参加し、全国から集まった3500人の皆さんとともに研修した。

初日は「子育て支援」へ女性と政治参加など16もの分科会があり、私たちは第1分科会「福祉」に参加した。歌手のペギー葉山さんの「歌って、愛して、介護して、そして今…」と題した講演が終わると会場から割れるような拍手が送られた。その後のシンポジウムでは、これからの福祉のあり方について熱心な議論が交わされ、関心の高さが伺えた。

2日目の全体会では「男女共同参画を超えて～男女平等・多様性が受け入れられる社会づくりをめざす～」のテーマで、韓国、企業、地域と各方面で活躍されているパネリストらが自らの活動について発表し、未来に向けた方策について考えた。

続いて基調講演があり内閣府男女共同参画局 板東久美子局長より、日本の男女共同参画の状況と、今後の課題と方策についての報告があった。



午後からは俳優、吉行和子さんによる記念講演「私の歩んできた道」を聴いた。母親のあぐりさんをみなからの生活や俳優活動などを淡々と語られ、ご自身のご努力と人からの誠実さを感じとれた。

「大会テーマ」「一人ひとり 響きあう」といふ そして未来へ」のもと、全国各地から参加された皆さんと交流を深め、真の男女共同参画社会の実現に向けて力を出し合い、粘り強く活動していくことを誓い、帰町した。

ふるさとウォーク2007開催

11月18日(日)伊方町体育協会伊方支部主催、伊方町・伊方町教育委員会・伊方町健康づくり推進協議会・伊方町国民健康保険共催により、ふるさとウォーク2007が伊方地域で開催されました。

このウォークは、地域の自然の中で、歴史、文化にふれあいながら歩き、あわせて日頃の運動不足の解消、健康増進を図ることを目的に毎年コースを変更して開催されています。

今年は、伊方小学校をスタートし、有寿来小学校跡地を往復する約8、2kmのコースで実施されました。



大会当日は風が強く寒さを感じる天候となりましたが、参加者は、実りの秋を迎え収穫真っ盛りのみかんの色づいた樹園地が広がる中を、絶好のロケーションを満喫しながら歩きました。

コース沿いでは、所要所にポイントを設け、スタンプラリー、歩数当てクイズなどをし、さわやかな1日を過ごしました。

なお、今年度は八幡浜地方局、水土里ネット愛媛、愛媛県農村環境保全向上活動支援協議会のご協力を得まして、かんがい排水事業等の学習もおこなわれました。



公民館だより

中央公民館

中央教室

「クリスマスリース作り」

12月8日(土)伊方町民会館において中央教室を開催しました。今回は、季節に合わせてクリスマスリース作



りをしました。まずは、飾る材料を近くの神社や公園に行き、松ぼっくりや落ち葉を拾いました。帰ってきたからは本格的にリース作り、カズラを巻き、その上に自分の頭の中で描いたものを作成していききました。皆さんそれぞれ個性があり、一人として同じ物がない一品ができました。今年のクリスマスには玄関などに飾られたのではないのでしょうか。



町見公民館

絵手紙で交流

12月2日(日)町見公民館において「絵手紙教室」を開催しました。

この事業は、絵手紙をとおして九町小学校児童・二見小学校児童と絵手紙グループ「のじぎく」の会員との交流を図り、また絵手紙のやりとりによる友達・仲間づくりのきっかけづくりに寄与することを目的としています。

当日は、児童12名と「のじぎく」会員11名・保護者等3名の計26名が参加。講師は参加された「のじぎく」の会員さんたちで、参加した児童は筆の使い方や着色の方法を指導していただきながら季節の花等、自分の描きたいものを選び楽しく交流を深めていました。

絵手紙は「絵の入った手紙」です。自由に絵を描き、短い言葉を添えて送るもので、電話等にはない暖かみがあります。心を込めて手紙を描いているうちに、その手紙を楽しみに待っていてくれる人が出てき



ます。また、仲間が増えてくると自分なりに工夫するようになり楽しみも増えてきます。皆さんも絵手紙に挑戦してみたいいかがでしょうか。

この学級で出来上がった作品については、町見公民館のロビーやふるさとまつり等へ展示して紹介していきたいと考えています。また、公民館には他にも団体・個人の様々な作品が展示されていますのでぜひ一度ご覧下さい。

瀬戸公民館

地域ソフト

ボール教室

11月18日(日)少し肌寒い天気の中、瀬戸つどいの里、瀬戸球場にて地域ソフトボール教室を開催しました。

当日は、実業団の伊予銀行女子ソフトボールチームの、大國監督初め、選手16名が、町内のスポーツ少年団の子ども達に、熱心にピッチング・守備・打撃の仕方等を教えてくれました。

選手のお姉さん達は、大きな声で子ども達に声をかけ、明るく、元気で、熱意あふれる指導をしてくれました。

子ども達も選手の大きな声に負けない元気な声で、真剣に教室に望んでいました。

参加した子ども達はこの教室を通して、基本技術の習得と、元氣よくプレーすることの楽しさや喜びを感じたことと思います。



参加者全員集合して記念撮影



キャッチボール

町並み探検ツアー

11月25日(日)瀬戸地域の子も達が、伊方、三崎地域の町並み探検を行いました。

当日は、参加者が少なかったですが、学芸員の高嶋さんの案内の元、アットホームな感じで楽しみながら探検していきましました。

午前中は、湊浦地区の八幡神社で、動物さがし、歴史の勉強をしました。

亀ヶ池公園では、ピオトープで自然観察をし、町見郷土館では伊方の歴史・文化に触れました。

午後からは、三崎のムービー、あこ樹、伝宗寺などを散策し、最後に伊方町で一番高い伽藍山の頂上まで登りました。

今回は、限られた時間でしたので、特定の場所しか探検することが出来ませんでした。

しかし、少しでも、地域のことを知ってもらったことで、自分の住んでいる町について好奇心を持ってもらったのではないかと思います。



三崎公民館

三崎の魚で美味しい刺身をつくらう！

IHでオシャレにクレープ作り！

「生活学校」

女性だけでなく生活に役立つことを学び、また女性同士の親睦を図ることを目的としたカルチャースクールの生活学校を12月4日(火)三崎公民館で開催しました。

第3回目となる今回は、三崎の美味しい魚で刺身のつくり方をプロから教えていただくこと、「まりな亭」のシェフ宇都宮圭さんを講師に招き、魚のおろし方教室を行いました。また、四国電力の方に来ていただき、電化生活についての講習とIHでクレープ作りに挑戦しました。

電化生活の講習では、オール電化にすると家庭の光熱費が抑えられ、電化生活の安全性について教わりました。また、実際にIHクッキングヒーター(電磁式のコンロでクレープ作りに挑戦し、四国電力の方にレシピ等を教わり一人作ってみました。



四国電力の方から電化生活の講習



宇都宮シェフから魚の捌き方を教わる若奥様たち

生クリームやソースでオシャレにトッピングして、とても美味しく出来上がっていました。

魚のおろし方講習では、ヤズを食材にして刺身作りに挑戦。初めて魚を捌く方や苦手な方もいましたが、宇都宮先生が実技指導で鱗の落とし方や頭を落とすときの包丁の入れ方(角度)、血合いのとり方、包丁を入れるとき魚の向き等々、また個人個人への細かいレクチャーのかいあって、初めての方もどうにか刺身にまでこぎつけたようでした。また、普段しなれていない方も今までの間違った順序や方法などに気づかされたようで、プロから教わることでとても勉強になったようでした。

最後に宇都宮先生は、「練習あるのみです。」と海の町三崎の奥様にエールを送っていました。是非、今回の成果を生かし、三崎の美味しい魚料理をご家庭で振舞ってあげてください。



学校通信



三世代交流会

三崎中学校

毎年恒例の三世代交流会が十二月二日に実施されました。例年平日の実施でしたが、保護者の参加が少ないということと、今年は日曜日の実施にしたところ、三十名近い参加があり、大変な盛会となりました。

まず、最初に『しめ縄作り』を老人会の六名の方とPTA会員の指導で行いました。あざやかな手つきで仕上げていく指導者の技に驚嘆しながら、生徒全員が自らの作品を仕上げていきました。『しめ縄作り』が終わった後、老人会・保護者・生徒が合同チームを作り、『輪投げ大会』を行い、笑いとお喋りの中で、楽しい時間をすごしました。

今、都会では核家族化の中で、世代間の断絶が社会問題となつています。社会は自分だけのものではなく、それぞれの世代が共存できて、初めて地域社会が成り立っていくということを学ぶ、良い機会となりました。



佐々木公園

伊方中学校

伊方町湊浦出身の佐々木長治(高二郎)氏は、事業に成功し「素質ある青年を伸ばすことが、社会のため」に大切である」と痛感され、大正三年四月私立実践農業学校を設立しました。その跡地に佐々木公園(伊方中庭)があります。この私立実践農業学校について『伊方町誌』に次のように紹介されています。

『教育方針は、「農業を通して自然に親しみ、天を敬い、地を愛し、勤労によって、真の人格を陶冶すること」を主眼とした。初代校長には、札幌農学校に学び、クラーク博士(少年よ大志を抱け!)の有名な言葉を残した)の感化を受けた小島

喜作氏が就任した。

伊方村は杜氏出稼が多く、男子不在の間は農業一切の仕事は、女子の手で進められていた。そのため、大正八年女子部開設、男女共学の教育体制がとられた。入学者は県外からも来る者もあり、地方農業教育のメッカとなり、施設見学に来る人も多くなった。

昭和十九年四月学制改革により、愛媛県立伊方農業学校と改称した。昭和二十三年四月学制改革により、新制高等学校となり、川之石高等学校と合併し、農業科として川之石に移った。



た。(現在の川之石高等学校の前進である)ここで伊方農業学校は終止符を打ったが、創立以来の卒業生は一四二七人で、各界で活躍する人も多い。』

佐々木公園の中には、佐々木長治先生の顕徳碑と初代校長小島喜作氏が、離任する時に言われた「土を愛せよ」の碑が建立されています。伊方中学校にこられる機会がありましたら、是非中庭にある佐々木公園に立ち寄って下さい。



環境とエネルギーを学ぶ

ライブ配信授業

九町小学校

地元に原子力発電所がある全国の小学校を通信ネットワークで結んで、環境やエネルギーについて考えるライブ授業に参加しました。本校の高学年は、総合的な学習の時間で「環境問題」に取り組んでいるため、静岡・福井・愛媛・佐賀の小学生と共に、課題意識を持つて学習することができました。

授業では、互いの学校紹介をしたり「地球の歴史や生命の歴史」「地

球環境問題」について、互いの実践を発表したり意見交換をしたりしました。本校の六年生も「近年、周りの環境が少しずつ悪化している。海のごみをなくす運動や九町めだかやホタルを守る運動を続けていきたい。」等の発表を堂々で行いました。

そして、おさかくんが「2049年には、温暖化や汚染により海の生物が全部いなくなる。」とか、

東京大学の松井先生が「一人の人間が生存に必要なエネルギーは、ソウ一頭に匹敵する。」と話されたとき、子どもたちの表情が寸時に変わりました。環境問題は、これからの子どもたちの未来に大きく関わる事です。学校でも、今以上に積極的に取り組んでいかないと改めて思った授業でした。



“児童演劇やバレエ公演を身近に触れる児童生徒”

えひめこども文化体験劇場を鑑賞して!!

演劇：「卵をとるのはだあれ？」

11月16日、「ゲキダンキオ」による児童演劇が、三崎小中体育館にて「えひめこども文化体験劇場」として開催されました。

体育館のフロアーを舞台として、目の前で繰り広げられる迫力満点の舞台演劇に、子どもたちは、劇の世界にいつの間に入り込んでいました。子どもたちの笑い声、かけ声も舞台の構成要素に組み込まれていきました。感情の豊かにこもった声と動作、生演奏のBGM、身体で雨、風などの風景を作り出すダンス等まばたきを忘れるほどすばらしいものでした。子どもたちは、鑑賞後すぐにその台詞や動きを真似していました。「命の大切さ」と「笑い」を体感できたすばらしい時間でした。終演後のバックステージでは、舞台の裏側を見ることができて、子どもたちも先生も感激しました。

子どもたちの感想

ぼくは、学校で劇を見ました。猫のぬいぐるみが猫に変わっておもしろいことをしました。ぼくは、おもしろくてたまらなかったからいっぱい笑いました。最後に劇の中に入って、でっかい卵とちっちゃい卵を触りました。楽しかったです。また、見たいです。

〈1年 大石翔生〉



三崎小学校・二名津小学校・佐田岬小学校

フィフィという魔女の魔法のスプレーで、ぬいぐるみの猫が本物の猫になったのすごくいいなあと思いました。たった一つ残った卵がだんだん大きくなっていくのでおもしろいです。その卵からは、千年に一度生まれてくる



ぬくぬく鳥の卵です。驚いたのは、ぬくぬく鳥が卵を食べて生まれたのでびっくりしました。赤ちゃんが生まれて良かったです。気持ちがこもっていったので、役になりきっていると思いました。最後に一番気になる白い部屋を見せてもらう体験もできました。劇をした人たちはとても疲れていたのがんばっているなあと思いました。とっても楽しかったです。〈3年 松下安裕〉

ぼくたちが楽しみにしていた文化体験劇場がありました。その人たちは、ぼくたちより何倍も大きな声で、ふりも大きくしていたのでとてもすごいと思いました。今日見て印象に残ったのは、卵博士が言ったのを猫が真似したところです。他にもピアノの人やカエルの役をしていた人たちがすごく上手でびっくりしました。ぼくたちは、12月に学習発表会があるので是非見てください。〈4年 山崎涼平〉

本物の舞台芸術体験

「バレエ公演」を鑑賞して

瀬戸中学校

11月14日、瀬戸総合体育館において、本物の舞台芸術体験事業(バレエ公演)が行われました。この事業は、本物の舞台芸術を身近に触れることで、児童・生徒の芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うことを目的に文化庁主催で行われているものです。出演の『法村友井/バレエ団』は、関西で唯一プロ活動を行い、自主公演を初め豊富な舞台実績は文化庁芸術祭賞等数多くの評価を受けているバレエ団です。事前に行われたワークショップでは、バレエの基礎知識を習い、実際に生徒も基本姿勢などに挑戦しました。ほとんどの生徒が初めて目にするバレエのしなやかな動きに感激し、当日の公演を心待ちにしていました。

以下は、生徒の感想の一部です。(抜粋) 基本姿勢

・最後の「くるみ割り人形」が一番楽しかったです。曲は昔演奏したことがあり、知っていましたが、たくさんの登場人物がいて何度も楽しめました。

(3年女子)

・体が柔らかく表現するのがとても上手で、長い時間ずっとしてい



バレエの基本姿勢を習う中学生

るのに全然しんどそうな顔ではなかったので、さすがプロだなと思いました。(3年女子)・踊っている人は声を出さず頭のてっぺんからつま先まで、全てを使い表現しているのがとてもすごいと思いました。(3年女子)

・どの曲の時も姿勢がよく、表現力豊かだったので見習いたいです。本物の舞台芸術体験事業がバレエで良かったです。

(3年女子)

・バレエを初めて見たわけではないけど、あんなに近くで見たことはなかったし、やっぱりプロは違うなと思いました。

(2年男子)

・ワークショップでバレエを見て、バレエの印象が少し変わったし興味を持った。公演では女の人を持ち上げたりダイナミックな技も見せてくれたりして面白かった。

(2年男子)

・会場に入った瞬間びっくりしました。照明はたくさんあるし、きちんとセティングされた舞台。胸がドキドキして、待っている間もそわそわしていました。本物のバレエ団を近くで見ることができて嬉しかったです。

(2年女子)

普段自分たちが使用している体育館が舞台になったことにより、すぐ目の前で本物の舞台芸術に触れることができ、華麗なバレエに魅了された1日になりました。





三崎・赤坂にて

石造物(五輪塔など)の調査を進めています。

現在町見郷土館では、瀬戸・三崎地域を中心に、石造物(五輪塔など)の調査を進めています。その形や石材、銘文などから、建立の時代や交流圏がうかがえ、半島の知られざる歴史を知る貴重な手がかりとなるのです。館ではそれらを一件ずつ図面に記録し、管理されている方などから、謂れや伝承などのお話を聞かせていただきながら、報告書の発行を目指しています。みなさまのご理解とご協力を、何とぞよろしくお願いいたします。

町見郷土館から

◆今月のきょうどかん◆

2008年 1月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

■—おやすみ □—夜間開館
休館日は都合により、変更する場合があります。

TEL・FAX 39-0241
(不在の場合)
38-2661 生涯学習課
開館時間 9:30～16:30
休館 月 ほか

1月の「佐田岬の自然スライド上映会」

1月23日(水) 18:30～20:30

入館無料

テーマ「生態系に見る地球温暖化」 お気軽に!

塩サバ入り雑煮

また新しい年を迎える季節になりました。

お正月のお料理といえお雑煮。各家なりに、それぞれ特色がありますね。

今ではもうやる家も少なくなりましたが、「若水(わかみず)を汲む」といって、早朝に一家の主である男性が井戸へ水を汲みに行き、帰ってその水でお雑煮を炊くのも男性というのが、元旦の朝ならわしという地区は多くありました。

お雑煮の中身も、家ごと地域ごとの傾向があるようです。人参や小芋などの野菜、かまぼこやちくわなどの練り物類はよく聞く具材ですが、例えば二名津あたりでは、エソの切り身が入るというお家を聞きます。また塩

佐田岬民俗ノート

32



塩サバの入った雑煮(2006年 九町某家)

成から九町あたりにかけては、なんと塩サバが入るお宅が多いようです。写真は九町某家のお雑煮。二〇〇六年のお正月に撮影されました。こちらでは、具の数は奇数にするという、豆腐・大根・

人参・かまぼこ・ちくわ・椎茸、そして塩サバ。それらを平皿に、まるで煮物のようによそって、お汁とお餅はお椀に。この二皿セットで「お雑煮」だそうです。トコロ変われば何とやら。じつは独特の「文化」かもしれない地元の「当たり前」。今年も、それを大切にできる一年でありたいですね。



図書館だより



今月の新刊

○子ども向け

- よーいどんで名探偵／杉山 亮 作、中川大輔 絵
- かわいいこねこをもらってください／なりゆきわかこ 作、垂石眞子 絵
- 幸子の庭／本多 明 著
- キャベツ／石井睦美 作
- 涙のタトゥー／ギャレット・フレイマン＝ウェア 作、ないとうふみこ 訳
- ゴールライン／秋木 真 作、ゴツボ×リュウジ 絵
- まゆげのひみつ／いまむらいくよ さく、いわさきりか え
- ごきげんぶた／さとうめぐみ さく・え
- もったいないことしてないか？／真珠まりこ さく・え
- かくれんぼ／せなけいこ さく・え

ほか



○一般向け

- 夜叉桜／あさのあつこ 著
- パーティ／山田悠介 著
- 有頂天家族／森見登美彦 著
- 獅子の系譜／津本 陽 著
- マザコン／角田光代 著
- つばさよつかさよ／浅田次郎 著
- 古い力／佐藤愛子 著
- 体を温めると病気は必ず治る 実践編／石原結實 著
- 灯台守の話／ジャネット・ウィンターソン 作、岸本佐知子 訳
- メタボとガンに効く 魚のチカラ／滝澤行雄 著
- 裁判員制度の正体／西野喜一 著
- イチロー哲学／児玉光雄 著
- ホームレス中学生／田村 裕 著
- 着物リメイク

ほか



利用案内

- 開館日／火曜日～日曜日
午前9時30分～午後6時
- 休館日／毎週月曜日（月曜日が祝日のときはその翌日も）
祝日・月末図書整理日・年末年始（12月29日から1月3日）・蔵書点検日

伊方町立図書館（伊方町生涯学習センター2階）

伊方町湊浦1992番地

TEL (0894) 38-0607 FAX (0894) 38-0617

瀬戸町民センター・三崎公民館にて圖書の返却のみ可能。

1月 図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

□…休館日

ピップスおはなし会のごあんない

1月のおはなし会は
12日(土)・26日(土)
午後2時から30分程度

■対象

未就学児童および
親子小学校低学年生

ブックスタートはじめました

平成19年10月16日(火)に伊方保健センターで行われた4・5ヶ月乳児相談時(平成19年4月1日以降生まれの乳児対象)に「ブックスタート」を伊方地域からはじめました。

ブックスタートとは？

赤ちゃんの心と体の健やかな成長を願って、地域で行われている乳児健診時に、絵本や子育て支援ブックなどの入った「ブックスタート・パック」を手渡す子育て支援運動です。

赤ちゃんと保護者にゆったりと心安らぐふれあいの時間を絵本を介して持つきっかけをつくることの大切さを伝えることを目的としています。



「ブックスタート・パック」



伊方スポーツセンターをより



☆フィットネススクール5期生募集のお知らせ☆

ジュニアスイミングスクールA・B

期 間 1月10日～2月28日
※1期は2ヶ月です。

時 間 (A) 16:20～17:10
(B) 17:20～18:10
【泳力によってA・Bに振り分けます】

曜 日 木曜日

対象者 5歳児～小学4年生

会 場 温水プール

定 員 (A) 20名 (B) 20名 計40名

受講料 6,400円/2ヶ月(8回分)

持ち物 バスタオル・水着・キャップ・ゴーグル

その他 初めて受講される人は、体験スクールを受講していただきます。



トレーニング(初心者歓迎)

期 間 1月9日～2月27日
※1期は2ヶ月です。

時 間 ① 18:30～20:00
② 20:00～21:30
(希望の時間帯にお越し下さい)

曜 日 水曜日

対象者 一般成人男女

会 場 トレーニングルーム

定 員 20名

受講料 4,000円/2ヶ月(8回分)

持ち物 運動のできる服装・屋内シューズ



キッズテニス&ボール体操教室

期 間 1月12日～2月23日
※1期は2ヶ月です。

時 間 14:30～16:00

曜 日 土曜日

対象者 5歳児～小学4年生

会 場 3階 アリーナ

定 員 10名

受講料 3,000円/2ヶ月(6回分)

持ち物 運動のできる服装・屋内シューズ。ラケットは貸出用があります。



● 詳しいお問い合わせは、下記にご連絡下さい。

伊方スポーツセンター ☎ 38-1100、☎ 38-0776



見遊館より

ひこうきを作りましょう!

1月19日(土) 午後2時から、ひこうきを作りましょう!
参加される方は当日時間までに受付にお越し下さい。

【お問い合わせ】 伊方町生涯学習センター内 見遊館 38-1020

映画上映会のご案内

1月12日(土) 見遊館にて映画上映会を行います。
室内が狭く、人数に限りがありますので早めにお越し下さい。

場 所 見遊館内集会室

作 品 名 ラマになった王様

上映時間 1回目 10:00～11:10 2回目 15:00～16:10

【お問い合わせ】 伊方町生涯学習センター内 見遊館 38-1020



鉄道展開催

～国鉄JRを追い求めて～

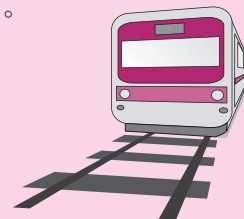
(場 所)

伊方町生涯学習センター
4階 企画展示室

(期 間)

12月1日～1月12日
南予伊予鉄・山本久萬様と西予市にお住まいの上甲洋様による廃止～現役の鉄道車両写真や切符を展示しています。

皆様の御来館をお待ちしております。



2月4日(月)までに体育功労表彰該当者は申請を

2月24日(日)に予定されている伊方町生涯学習推進大会で体育功労者表彰を行います。

次の表彰基準に該当される方は、伊方町教育委員会生涯学習課又は各総合支所地域教育課に備え付けの所定申請書に関係資料を添付し、2月4日(月)までに申請して下さい。

尚、表彰状の授与については、期日までに申請のあった表彰該当者のみ行います。

表彰基準、対象期間については、次のとおりですが、詳細な内容についてはお問い合わせ下さい。

【問い合わせ先】

- 生涯学習課 ☎ 38-2661
- 瀬戸地域教育課 ☎ 57-2111
- 三崎地域教育課 ☎ 54-1114

【表彰基準】

(1) 個人の場合

- ア 個人競技で国、県、財団法人日本体育協会が主催又は後援している大会の県大会優勝者
- イ 個人又は団体競技の選手として県予選を経た四国大会以上の出場者

(2) 団体の場合

- ア 団体競技で国、県、財団法人日本体育協会が主催又は後援している大会の県大会優勝チーム
- イ 県予選又は推薦を経た四国大会以上の出場チーム

(3) 個人、団体を問わず国際大会出場者

【対象期間】

平成19年1月1日～平成19年12月31日までの間に開催された大会

平成20年 成人講座開催のご案内

当年厄年と言われる33歳、42歳、及び還暦61歳の方が一堂に集い、学習や交流の場を通じて、充実した人生設計や家庭、町づくりを考える意義深い一日を過ごすことを趣旨として「成人講座」を開催いたします。

町内在住の対象者の方には案内状を送付し、出欠席のはがきを同封いたしますので、多数のご参加をお願いいたします。

日時 平成20年1月27日(日曜日)
10時30分～

場所 生涯学習センター 5階 多目的ホール

今回の対象者は次のとおりです。

33歳の女性

昭和51年4月2日～昭和52年4月1日生まれの方

42歳の男性

昭和42年4月2日～昭和43年4月1日生まれの方

61歳の男性・女性

昭和23年4月2日～昭和24年4月1日生まれの方

高校・大学等へ進学される皆さんへ ～平成20年度 伊方町奨学生を募集～

伊方町では、経済的な理由により修学困難な学生又は生徒に対し、学資金を貸与して有用な人材を育成することを目的として奨学金制度を実施しています。

(出願資格)

奨学生となることのできる方は、次の各号に掲げる要件を備える者とする。

- (1)平成20年4月に学校教育法に規定する高等学校(盲学校、聾学校、養護学校の高等部を含む。以下同じ。)、高等専門学校、大学及び愛媛県立農業大学校に入学する者に限る。
- (2)人物、学業ともにすぐれ、健康であり、かつ、学資金の負担が困難であると認められる者であること。
- (3)保護者又はこれに準ずる家族(成人者に限る。)が伊方町内に居住すること。
- (4)保護者又はこれに準ずる家族につき、町税等の町に納付すべき徴収金に滞納がないこと。
- (5)奨学金の償還について、十分な能力又は見通しを有すること。

(貸与月額)

高 校 奨 学 生……………20,000円
高 専 奨 学 生……………35,000円
大学(短大)奨学生……………45,000円
県立農大奨学生……………35,000円

(貸与期間)

平成20年4月から進学する学校の正規の修業期間です。

(出願手続)

「伊方町奨学生願書」に必要な事項を記入し、世帯全員(15歳未満の者及び就学者は除く。)分の「平成18年分の町県民税公課所得証明書」を添えて在学する学校(出身学校)へ提出してください。

学校長が「伊方町奨学生推薦調書」を作成して、願書等とともに教育委員会へ提出します。

出願用紙は町内の各中学校、三崎高校、川之石高校、八幡浜工業高校、八幡浜高校及び教育委員会、瀬戸地域教育課、三崎地域教育課にあります。

(提出期限)

在学する学校(出身学校)が指示する出願期限までに提出してください。

学校から教育委員会への提出期限

平成20年1月31日(木)

(採用の決定)

- (1)伊方町奨学資金選考委員会の選考を経て、採用候補者を決定し、通知します。
- (2)採用候補者に決定後、進学したときは、4月30日までに「進学届」を教育委員会へ提出してください。採用の決定は、5月中旬頃に通知します。

(奨学金の返還)

返還は、貸与が終了して6ヶ月を経た後、年賦の方法により、15年以内で教育委員会が定める期間内に返還していただきます。貸与金に利息はつきません。

☆奨学金についてのお問い合わせは、教育委員会又は学校へご連絡ください。

伊方町教育委員会 学 校 教 育 課 TEL(0894)38-2660
瀬戸地域教育課 TEL(0894)57-2111
三崎地域教育課 TEL(0894)54-1114

ライフアップ講座のご案内

日 時	場 所	内 容
第3回 1/12(土) 14:00～ 15:30	中央公民館 3階 研修室	一歩差のつくビジネスコミュニケーションマナー 講師：松山東雲短期大学教授 桐 木 陽 子さん
第4回 2/16(土) 14:00～ 16:00	中央公民館 3階 調理室	韓流クッキング かんたん!おいしい!韓国の味 講師：松山東雲短期大学教授 峰 弘 子さん

定 員 20名

申込締切日 第3回目

平成20年1月8日(火)

第4回目

平成20年2月8日(金)

受 講 料 無 料

(ただし、材料費などの実費については受講者負担)

申込・お問合せ先

伊方町教育委員会 生涯学習課
TEL 38-2661 FAX 38-1179

伊方町女性のつどいのご案内

伊方町婦人会では町教育委員会と共催で「健康で明るく心豊かな住みよいまちづくりのために、女性によるパワフルな活動を展開しよう」というテーマのもと、今年度も「女性のつどい」を開催いたします。どなたでも受講できますので、是非ご参加ください。

◇日 時 平成20年1月20日(日)13:00～16:00

◇場 所 伊方町生涯学習センター 5階 多目的ホール

◇内 容

第1部 講演 「地域づくりに女性の力を」

講師 亀岡マリ子氏
(愛媛県女性総合センター館長)

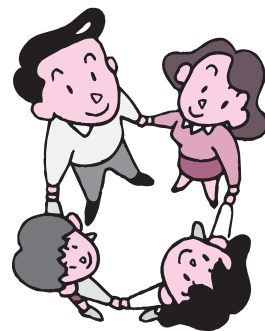
第2部 健康講座

◇受講料 無 料

◇申込先 住所、氏名を生涯学習課までご連絡ください

TEL 38-2661 FAX 38-1179

◇申込締切 1月15日(火)



女性団体連絡会主催講演会のご案内

本年度の講演会は、浪花のカリスマ講師『ふくだ友子』さんをお招きして開催いたします。起業家として家庭人として、人生や子育て・教育問題など困難なことにも笑いチャレンジ精神で体当たり。老若男女を問わず好評を博している先生のお話を聴きに、ぜひお出でください。

◇日 時 平成20年2月5日(火)13:30～15:20

◇場 所 伊方町生涯学習センター 5階 多目的ホール

◇演 題 「プラス言葉が生み出す人生の好循環」

◇講 師 ふくだ友子氏(人材育成アドバイザー)

◇対象者 どなたでもOK

◇受講料 無 料

◇申込先 住所、氏名、連絡先を生涯学習課までご連絡ください

TEL 38-2661 FAX 38-1179

◇申込締切 1月31日(木)





人権学習シリーズ 217

「わたしが読んでやります」

(「進路・学力保障」分科会)

伊方町立水ヶ浦小学校 下 柳 信 幸

第59回全国人権・同和教育研究大会が金沢市で、「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」を研究テーマに、開催されました。現在の研究テーマは、第17回大会から引き継がれ、「子どもと向き合う」姿勢を教育の原点として以来、42年間続いています。同研究大会報告集によれば、「差別の現実から学ぶ」とは、——私たちの先達は「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の子もたちの実態を目の前にして、毎日のように家庭訪問を繰り返しました。そして、子どもたちは「来ないのではなく来られない」「学びたくても学べない」という現実があることが明らかになってきました。そこで子どものくらしぶりや親の姿、願いに会う中で、長欠・不就学の原因はけっして親の無理解や本人の怠惰が理由ではなく、そのくらしの背景にある部落問題こそがその要因であることを学びとってきました。……と述べています。

午後から同和教育の総和である「進路・学力保障」分科会に参加しました。全国各地で、熱い思いを抱いて実践している報告者の姿がありました。

「わたしが読んでやります」(熊本県人教)

K子と両親(発達障害)の間は遠く、一緒に暮らしてはいるが、夜は、よそに泊まっていた。就学を迎え勉強を見てやれないという思いが、母親の心を重くしていたようです。——K子の「お父さんお母さんが大好き」という思いが周りの偏見によって歪められることがあってはならない。K子には、K子を大切に思っているお父さんお母さんのそ

のままの姿を受けとめてもらいたい。「わたしのお母さんはね。お父さんはね。」と家族の話がたくさん出来るような授業を作っていきたい。(報告者)

当日は、親子で一緒に歌ったり、つるまき体操をしたりしました。授業の最後に子どもたちは嬉しくてたまらない顔で、今のことを絵や文に綴りました。「一言でいいので、授業や作文を読んだ感想を書いて下さい。」と親への宿題をお願いして終わりました。K子の家庭はわたしが聞き取って書くつもりで帰りに寄りました。しかし、お父さんは、すでにK子の作文の後に、「たのしかあててす」と書いてありました。車に戻った時、こらえていた涙があふれてきました。……(報告集より)

分科会々場では、事実と実践を大切にしたい(熱い思いの)意見の論じ合いがあり、参加者に確かな「出会い」と「感動」と「変革」を与えました。様々な教育課題で悩んでいる教職員をはじめ参加者の多くは、この論じ合いから、教育実践上の手掛かりを得て、教育現場や地域に、同和教育を広めていると思います。



全国人権・同和教育 研究大会に参加して

伊方町立伊方中学校 速 水 和 寛

特に印象に残った2日目の分散会の様子をお知らせします。

それは、キャリア教育の一環として、自分史についての作文を発表させる取組でした。

東大阪市意岐部中学校では、コリアタウンフィールドワークや、修学旅行での戦跡巡り、民家宿泊など特色ある取組がなされていました。それらを礎に、進路公開への取組に入ります。進路公開というのは、自分の進路を仲間の前で堂々と語って卒業することを目指したものです。ただし、志望校や希望する職業を述べることにとどまるものではありません。

心の中の弱い部分をさらけだし、自分を振り返るとともに、将来への一步を踏み出すための取組でした。

作文の内容は、親の病気や国籍などについて差別されてきたこと。自己表現がうまくできない理由など、悩みを抱え込んできた様子を涙ながらに発表する生徒があったそうです。普段の生活からは感じ取れない友達の真実の姿に驚き、お互いへの思いやりの心が育ってきたということでした。



また、将来の目標や進学がよりはっきりするようです。

真剣に自分と向き合い、自分を振り返り、そしてそれを人に伝えるのにはどれほどの勇気が必要であるのかを考えさせられました。

発表の締めくくりに「自他の価値を感じて生きる」という言葉が印象に残りました。

様々な問題の解決に向かって努力している仲間が、全国にたくさんいるんだということを直接確認することができました。それは、自分にとって大きな励みとなりました。

貴重な研修の機会を与えていただいたことに感謝いたします。どうもありがとうございました。

広 報

文 芸

伊方俳句会

定年も跡継ぎも無き蜜柑摘む
井上良枝
伊方の温泉胸まで浸る初湯か
上田サチエ
な
どの指も節くれ立ちて大根引
渡辺日出子
く
カラカラと枯葉も走る散歩道
上田幸香
柚子の香の湯気の向こうのコツ
石井義夫
プ酒
煌々の冬満月や露天の湯
山崎美喜
声高かに女兒まじって亥の子
宇都宮睦子
歌

石うすに浮き草咲きて鰯雲

篠川晴子

残る虫若きを忍ぶ同級会

宇都宮法子

新築のみんな日焼けて迎へら

れ
菊池ましえ

子の一家送りて閉ざす門の冷

え
門田千枝

張り替へし障子明るき奥座敷

松坂正子

蜜柑採り鉢のリズム鳥啼ける

長野しずこ

杜氏門出松尾の神に畏まる

上田益男

紅葉道夫の命日子等揃ふ

明神つた子

蜘蛛の罫をはらひつ下る枯野

田縁君子

初時雨身障者手帖届けらる

池田君子

石路の咲きて華やぐ野辺の道

篠川勝子

満天の星煌くクリスマス

二宮寿賀子

綿の実を枝ごと活けて出湯の

宿
木戸悦子

瀬戸句会

一日の食べる幸せ秋深し

小関秀次

防波堤幼なじみと日向ぼこ

吉上マツエ

三日月は寒さに耐えよと我に

言い
本田光男

酒をくむみかんの出荷終へて

より
井上幸子

咲き乱れ咲き乱れつつ萩の風

阿部槇太郎

暮れ急ぐ茜の空に冬かもめ

大星幸子

野仏に誰か手向けて野菊かな

佐々木サチ子

佐田岬夕日に映ゆる櫛紅葉

佐々木忠雄

草もみじ引きて畠の広く見え

浅井ミドリ

持ち帰る野菊の香り部屋に満

ち
結城励子

冬の海日光に照り黒さ増す

八城征雄

すさまじき雪崩に出会う奇遇

かな
岡本 登

貰い物の黒豆食べる冬の朝

福岡 博

師の訃報悲しくすみて今朝の

秋
佐々木 煦

香水をそと母に振り敬老日

佐々木禮子

年の暮残りし兄と墓掃除

加藤慶子

冬山に動かざる雲一つあり

桃 潤

大楠に千年の息吹阿波の秋

吉見福子

路地裏に師走の僧の急ぎ足

英 二

三机句会

ふつくらと男子小春の宮参り

大野律子

神域の紅葉濃かりし宇佐神宮

高地瑠美子

着飾られ抱かれて行く七五三

中村愛坊

海光の岬を染める櫛紅葉

長谷美久仁

風ありて大きく揺れる枯芒

安田増子

冬の空三日月だけが残りゐる

山本タカエ

竹垣に庭の眩しき冬薔薇

菊岡三代子

あみだ句会

秋雨や大洲盆地は昼の闇

阿部ヨシ子

芒野を行くとき車中話切れ

菊池タツエ

新米の匂ひ広がる夕厨

中村千代香

帰る船ゆく船ありて冬の湾

池上松子

ウォーキング触れてなびいて

芒の穂 高月 仁

大柄は女の子なり亥の子搦き

木原敬明

袋かけすみて一隅石路の花

塩崎信子

お茶湯の湯を注ぐ音冬風きて

池上 馨

燈台の陽だまりに咲く石路の

花 池井為吉